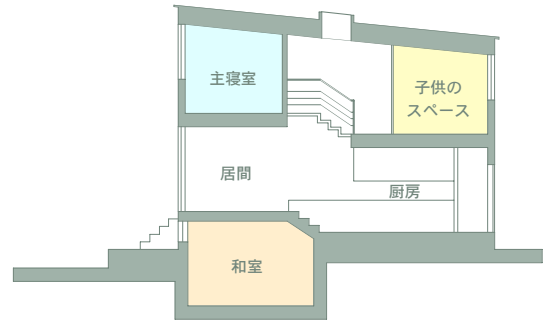




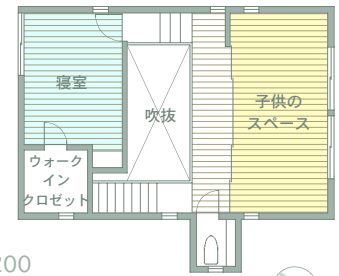
■道路側（南側）外観。下の開口部は半地階の和室の窓。



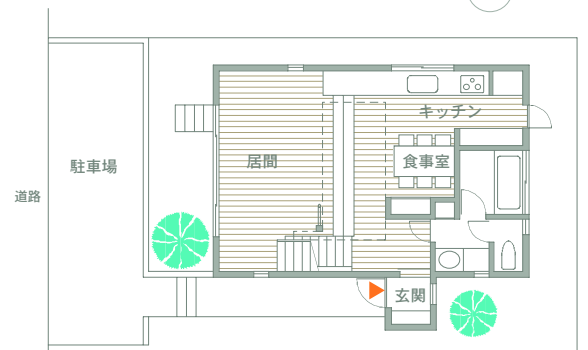
■居間より吹抜けを通して食事室と2階の子供室方向を見る。ワンルーム状の空間構成は実際より広く感じられる。



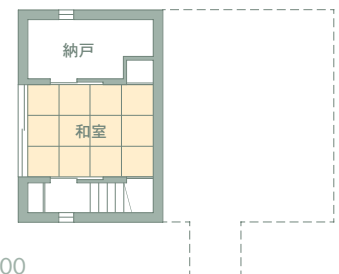
■SECTION 1/200



■2F PLAN 1/200



■1F PLAN 1/200



■BF PLAN 1/200

- 聖跡桜丘・O邸
- 敷地面積：115.77㎡ (35.02坪)
- 延床面積：105.17㎡ (31.81坪)
- 構造規模：RC造+木造 地下1階 地上2階
- 家族構成：夫婦+子供2人+母



■居間より玄関方向を見る。



■階段より子供室方向を見る。



■2階廊下より吹抜け方向。上部に1帖の大きさのトップライト。

建蔽率40%、容積率80%という比較的、法規制のきびしい敷地に建つ2世帯住宅。そこで容積率からは除外される半地階にお母さんの和室を確保して、全体を5つのレベルで構成されるスキップフロアの断面計画を提案しました。トップライトがある明るい吹抜けを中心として各レベルに部屋の機能を割り振り、階段で繋げています。一番上のレベルに位置する主寝室と一番下のお母さんの部屋以外は、大きなワンルーム状の空間で、視界が抜けることによって、物理的な大きさより広く感じられると同時に、子供の部屋が孤立しない関係をつくっています。

■詳しくは説明ページ→(p33)をご覧ください。

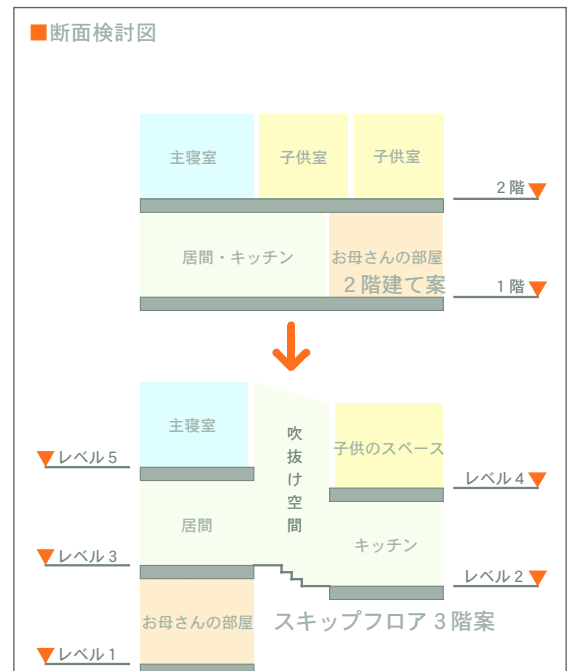


■吹抜け見おろし。



■半地階とは思えない明るい和室。扉は和紙貼。

土地面積は35坪ほどありますが建蔽率は40%、容積率は80%、第1種高度斜線という法規制がややきびしい敷地に建つ、夫婦+子供2人+お母さまのための2世帯住宅です。キッチン、浴室などの水廻りは2世帯で共用されるということでした。当初は1階にLDK、お母さまの部屋を、2階に主寝室、子供室などの個室を、法律が定める面積いっぱいの中に割り振る2階建ての案で考えていました(右上図)。しかし広いリビングルームが欲しいという要望からは程遠い8帖ほどの居間しか確保できません。また小さな子供達の部屋も2階の個室群の中に埋没して孤立しそうな感じになってしまいます。これは動線や水廻りをコンパクトに納めればなんとかかなるというような問題ではなく、法律で許容される物理的な面積上の問題でした。そこで予算的には少し心配でしたが、思いきって法律上は地階扱いになるぎりぎりのラインでかつ日当たりも確保できる半地階の導入を検討しました。地階は容積率にはカウントされないため、その分をリビング空間の面積に割り当てるのが可能になります。



地階はコンクリート造になり、重機で土も掘らなければなりませんから地上階の木造に比べればかなりコストがかかります。予算的にもきびしかったこともあって、地階のヴォリュームを最小限にとどめることにし、半地階の部屋が地上に頭を出す部分を利用してスキップフロアの断面構成を考えました(上図)。これは第一種高度斜線を建物の北側の高さでぎりぎりにかわすための策でもあります。スキップフロアの5つのレベルにそれぞれ、部屋の機能を割り振りさらに面積的にも余裕ができましたので当初は無かった吹抜けを中央に設け、そこを階段で繋げます。子供室は吹抜けに面して引き戸で開け放てるようにすれば、リビング空間と一体感がある孤立しない部屋として計画できます。

中央の吹抜けには畳1帖ほどの大きなトップライトを設けることによって、南北に細長く、東西両隣も建て込んでいた環境に対して、家全体を十分な光で満たします。一番上のレベルに位置する主寝室と一番下の和室以外はワンルーム状の空間で風通しも非常に良く、各部屋をそれぞれのレベルに割り当てた明解な構成は、平面上のパズルのようなプランに比べて分かりやすく、住む人の心に気持ちよく受け止められるように思います。



■ 引戸を閉めれば、リビングから見ていた子供室も独立します。

